

中央大学における 公認会計士の育成について

中央大学経理研究所副所長 中央大学教授

矢部 浩 祥

1. 先輩たちの伝統を引き継ぐ

中央大学における会計学の伝統を考えてみると、それはイギリス法律学校の建学の精神にまでさかのぼることができるのではないかと思います。イギリスの経験主義の哲学は、認識の根源を経験に求めるものであり、中央大学はそのような学問の方法を基礎にすえて、多数の実践に携わる専門職を世に送り出して来たといえるでしょう。

公認会計士制度が発足して半世紀を迎えることになるわけですが、この間、中央大学は優れた教授たちの研究と教育の下で、優秀な公認会計士を多数輩出してきたのですから、これからの若き学徒に望むことは、今までの中央大学出身の公認会計士たちのすべてが培ってきた、この高い学問的な、また実務的なレベルを引き継ぐとともに、さらにより一層高めていって欲しいということにあります。中央大学における公認会計士の育成を考えるに当たっては、広い視野と社会や人類に関する深い関心を持った学生を育てることが最も重要なことでしょう。

2. 新しい学問と大学の変革

今、大学は、社会におけるのと同様に変革期の中にあります。国際化、情報化の波は大学の教

育を大きく変えています。1997年3月に、初めての卒業生を送り出した総合政策学部は、卒業に必要な単位を取得しただけでは卒業できない。TOEFLの点が取れなければ卒業の要件を満たすことができないのです。また、情報教育は全員が必修として履修が義務付けられています。

このように、現代の基礎教育は、我々が過ごした大学時代とは大きく異なっています。英語やコンピュータを自由に操れることが学問の基礎の基礎として全学生に要求されるとともに、さらに深く、また広い視野を持った人間の育成が必要とされています。中央大学における研究と教育の全体が時代に添ったものになっているかが、中央大学が優秀な公認会計士を引き続いて送り出せるか否かの鍵になっているのです。その意味で、大学の研究・教育に対する責任は重いといえるでしょう。

3. 学生の興味と関心を育てる

現在の学生たちが社会人となる21世紀は、「持続的発展」という言葉が示唆するように、環境と経済のバランスをいかに上手にとっていくかということが最大の問題となると予想されています。経済の問題は、地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食糧問題、循環型社会

の形成等によって大きな影響を受けることになるでしょう。それゆえ大学の研究は、それらの解決のために新しいアイデアを示さなければなりません。国際、情報、環境、生命、福祉などがこれからの学生たちの取り組むべき問題のキーワードです。さらに、社会科学と自然科学が全く異なる領域として別々に教えられてきた現在の教育体系も、新しい問題を解決していく場合には不都合が生じるようになってきています。情報にせよ、環境にせよ、広い視野からの学問が必要なのです。経済や経営や会計といえども事情は同じであると思います。そのような土壌の中から専門職を育てなければならないでしょう。

4. 学部から大学院への移行

大学をめぐる環境の中で、今後一層大きな問題となってくるのは、大学院の問題です。18歳人口の半数が大学に進学するようになって、今や研究の主体は大学の学部から大学院に移りつつあります。大学院も、従来の大学における後継者や研究者の養成とともに、専門職業人の養成を掲げるようになってきました。ここでいう専門職業人とは、専門職という意味ではなく、広く様々なところで活躍できる研究能力を持った人材を意味しています。大学の学部が基礎教育の場となり、研究能力の獲得は大学院の場になされるのが今後一般化してくれば、将来の専門職は、大学院において高度の研究能力を培った様々な分野の人々を受け入れるような工夫が

必要となってくるでしょう。そのためには、数の拡大をも含めて、試験制度も再考されるべきだと思います。中央大学における公認会計士の育成も、将来は学部と大学院でハードな教育と研究の訓練を受けた学生たちを念頭において考えなければ、大学院大学に移行しつつある他の大学との競争に負けていくことになると思います。

5. いかに優れた学生を送り出すか

世界の公認会計士の業務の方向を見ると、公認会計士は今後一層広い領域に進出していかなければならないと思われれます。それは、企業や行政が求めることが益々広がっており、専門職はそれに応えることが要請されているからです。現在の学生たちの関心の領域も益々拡大しています。このような中で学問と受験勉強を両立させていくのは容易なことではないとも思われます。しかし、もともと優れた資質を持った学生たちですから、様々な学部の学問を修めて、その上に公認会計士の資格を取得していくことは可能であるし、そのような広い学問に関心と興味を持った良い学生をこそ、中央大学としては公認会計士界に送り出すべきであると考えます。中央大学の公認会計士試験の受験者数の減少が指摘されて久しかったのですが、最近になって受験を目指す学生がまた多くなってきたので、それらの各学部の学生が一人残らず合格していけば、中央大学の合格者の数は自ずと増加していくものと期待されております。

会長に就任して

中央大学公認会計士会会長
増田 浩二

中央大学出身の公認会計士の数は、公認会計士総数のほぼ1割を占めている。この数は、長い

間公認会計士業界で第一の位置を誇ってきた。かつて、公認会計士を目指す学生の殆どが中央

大学で学ぶことを望んだ時期があった。当時、中央大学や中央大学経理研究所の教授、講師陣には、公認会計士を志す者にとって憧れの的であった著名な会計学者がたくさん居られたからである。また、公認会計士二次試験合格者が、第三次試験受験までに義務づけられている1年間の研修(実務補習)を、中央大学経理研究所にあった会計士補実務補習所で受けていた。

このような歴史を背景に、中央大学が排出したたくさんの公認会計士は業界でめざましい仕事をし、立派な業績を残してきた。そして、現在も活躍中である。

かつては、公認会計士本来の業務である会計監査が、業として成り立ちにくいほど、社会的に認識されていない時期があった。しかし、今や企業のみでなく、公共・公益の分野でも会計情報に関する公開の重要性の認識が高まるなかで、公認会計士の役割は益々注目されている。なぜなら、会計情報は数値で表示されるが、数値は客観的であっても会計数値は必ずしも客観的ではなく、公開される会計情報の妥当性を検証することが公認会計士の仕事だからである。さらに、公認会計士の業務は新しい発展段階に入ろうとしている。経済の国際化と情報の高度化は会計情報にも当然のことながら影響を及ぼしている。これに伴い、公認会計士の活躍する場面は増えている。そして、それは間違いなく確かな将来の方向を示している。公認会計士業

務の拡大とそれに必要な公認会計士の数の増加である。

公認会計士業界の明るい将来を母校中央大学の後輩に伝え、この業界への参入を促すことが我々の第一の課題である。公認会計士への登竜門である公認会計士試験には相当な努力が必要であるが、その努力の殆どは忍耐であり、それは、どんな人生を歩む場合にも伴うもので、厳しくはあるが特別なものではない。これを後輩に説明することも、我々先輩の役目である。

初代会長川北博先生、二代会長山本秀夫先生の後を継いで、会長をお引き受けすることとなったが、もとより、私自身がこの任にふさわしいとは思っていない。幸い幹事長をお引き受けくださった三和幸彦先生をはじめ、副幹事長、幹事の皆様のご協力が得られることとなったので、2年間の会長任期を次の二つのことを目的として、微力ながら私なりに全力を尽くすつもりである。

① 大学、経理研究所に協力して、後輩の公認会計士第二次試験合格者増加に役立つ事業を積極的に行っていきたい。

② 会員間の交流機会を多くし、当会が会員により身近に感じられるように努めたい。

具体的な事業計画については、三和幹事長の事業計画の説明をご覧ください。

会員皆様のご協力を心よりお願いいたします。

勲三等瑞宝章を拝受して

公認会計士

山本秀夫

平成8年秋の叙勲に際しまして、はからずも公認会計士功勞として、勲三等瑞宝章拝受の榮に浴しましたが、これひとえに皆様がたの永年にわたる温かいご指導、ご助言、ご支援の賜であ

ると深く感謝いたしております。

顧みますと、人生の節目、節目において、必ず先輩、同僚の助言があり、支援があって、今日まで進んで来たように思われてなりません。

私は、山梨県甲府市の出身で、家は商家でした。市の中心の商家の長男は甲府商業、サラリーマンなどの一般家庭は甲府中学に行くのが慣わしで、それに倣い私は甲府商業に進みました。ところが、二年生の時、算盤で丙をもらってしまいました。商業学校で算盤が丙では話になりませんので、母親が心配して、取引先の甲府信用組合に算盤の達人がいるのを聞いて、私には断りもなく、毎日30分でもいいから時間外に教えていただくことをお願いしてくれました。毎日少しずつ勉強をするということは恐ろしいことで、三年生の珠算大会には補欠で出たところ優勝してしまい、爾来計算は苦にならなくなり、むしろ数字が読めるようになりました。このことは今、大いに役立っております。

大学は中央大学です。戦前の卒業ですが、公認会計士二次試験を受けようとした昭和27、8年頃は、在学中簿記を教えてくださった恩師井上先生が商学部、経理研究所におられ、公認会計士二次試験受験に力を注がれ、その結果、合格者数第1位を誇り、「公認会計士になるには中央大学商学部に入れ」とまでいわれておりました。したがって、経理研究所に行き再度勉強いたしました。二次試験は当然合格するような気がして、軽い気持ちで受験しました。これも井上先生がおられたからです。中央大学で井上先生に学ばなかったならば、公認会計士にはなれなかったと思います。

会社は、三菱鉱業に勤めておりました。今の三菱マテリアルで、まだ石炭と金属が分離する前の頃からです。会社には立派な先輩が多くおられました。そこで文章の書き方、表のまとめ方、事案についての対策の立案の仕方等とともに、会社のあり方のようなものを教えられました。この経験が後の公認会計士の仕事にずいぶんと役に立っております。その上、大槻会長(日経連会長)をはじめとして多くの先輩の方々に親しくさせていただいたことは感謝の外ありません。

昭和35年に退職し、公認会計士を開業したわけですが、その後も顧問先を紹介していた

だくなど、何かと応援してくれました。そこが三菱鉱業の良いところです。また、退職して間もない頃、経理部長であと副社長になられた方から、会社に来るようにとの電話がありました。退職金の追加でもいただけるのかと思ひ、早速会社にいったところ、その方から「三菱鉱業を監査している嶋田会計事務所に話をしておいた。事務所は、隣の丸ビルの5階にあるからすぐ行くように。」とのことでした。早速お伺いし、監査のお手伝いをする事になったのですが、嶋田事務所には、東京会の会長、本部の常務理事、三次試験委員等錚々たる先生がおられ、何かと教えられました。そこには、やはり三菱鉱業の経理部出身の同じ年の大野さんが既におられ、中心になって実務の処理をされておりました。嶋田事務所にお世話にならなければ、上場会社の監査を手掛けることはできなかったでしょう。

ここで忘れることができないのは、六補会のことです。私も実務補習所の6期生でありましたので、六補会という会を作ったのですが、そこには既に税理士事務所を開業している先輩もおり、サラリーマンで何もわからない私をよく導いてくれました。そして開業を促してくれたのも六補会の皆様でした。

次に、協会の関係ですが、昭和50年頃まだ私も協会活動については無関心の時でしたが、先ほどの大野さんから「スエヒロ会という公認会計士の会があるから出てみないか。築地の“スエヒロ”で肉を食べながら親睦を図る会だ。」との話があり、のこのこと出席してみたところ、結局協会本部役員の選挙母体でありました。これを機会として、本部理事に立候補することとなり、既に常務理事、理事をされている諸先輩から、葉書の出し方、票の読み方等のご指導を受け、自分としては不得手な選挙に臨みましたが、諸先輩の指導宜しきを得、比較的高得点で当選いたしました。この時、「スエヒロ会」に出席する機会がなければ、協会の役員にはなれなかったと思います。

本部理事に立候補し、理事2年、常務理事2年

を勤める間、尾沢先生はじめ多くの公認会計士の先輩友人を得ることができました。その後、3年間公認会計士三次試験委員を務めた後のことですが、「スエヒロ会」を中心として副会長に立候補してはどうか、との話が出るようになり、副会長に出ることになりました。副会長に当選し、初めの会長が村山さん、次が山上さんでした。副会長は、なかなか難しい役柄ですが、いずれも気持ちよく楽しく役目を果たすことができました。この経験が後で会長になってから、大変役に立ちましたことはもちろんのことです。

副会長2期5年の任期を終える1年近く前、次期会長立候補の話が出始めた頃、朝日監査法人としてどうするかが役員会でも議論された結果、山本立候補応援のこととなり、今の森田理事長他の幹部が中心となって、支援体制をつくってくれました。その結果当選したのです。一人の力ではとてもできないことでした。会長の任期3年の間全力投球はいたしました。7名の副会長、31名の常務理事、40名の理事の先生方をはじめとし、各委員会のメンバーの皆様、本当に良くやっていただきました。特に、副会長の先生には、私の至らないところを補っていただき、ときには難しい事案がありましたが、助言を受け、支援を得て何とか切り抜けることができました。さらに、日常業務について、大橋事務総長が率いる約90名の本部事務局の努力がありました。これがあつたればこそ、会長の職務が全うできたのです。

この間、クライアントの皆様、今日に至るま

で公私ともに大変お世話になり、ご支援をいただいております。その結果が今日であると、深く感謝いたしております。

また、家では言えないことですが、この場を借りて家内に一言お礼を申し述べたいと思います。昭和35年に三菱鉱業を退職し、公認会計士を開業しようとした時、一流会社を退職し、海のものとも山のものともわからない自由職業人となるのですから、不安がいっぱいであるはずですが、何もいわずに賛成してくれました。それ以来、慣れない仕事を押しつけ苦勞をかけております。感謝の外はありません。

このように、思い出してみますと、人生の節目節目には必ず側に何人かの人がおられ、助言し、指導し、支援をしてくださいました。その結果が今回の叙勲につながったと思っております。

これからは、今回の叙勲の意味をよく体して、少しではありますが今まで積み重ねてきたノウハウを後進にしっかりと引き継ぐとともに、健康に留意し、生のある限り、社会のため、公共のために貢献することができればと念じております。今日ほど公認会計士に期待が寄せられている時はありません。独立性を生命とした職業専門家としての本領を発揮していくのはこれからだと思えます。

最後に、厚かましい限りではございますが、誌面をお借りし、皆様の温かい温かいご指導、ご助言、ご支援に対しまして、重ねてお礼を申し上げます。

(1997.4.8記)

中大公認会計士会のパリでの集い報告

公認会計士
遠藤忠広

1. 世界会計士会議に参加して

第15回世界会計士会議が花の都パリのポルト・マイヨール広場に近いう・デ・コングレ・

コンベンション・センターを会場にして平成9年10月26日より29日まで開催された。日本からは、会員、準会員、事務局関係者及びそれぞれの夫

人同伴を含め約300名余が参加した。我が中央大学からは25名余の会員と同伴者を含め約45名余の人々が参加されたものと思われる。

例年ならば、パリの10月中旬から11月にかけては薄曇りか雨天の日が多く、気温も10度以下の日々が続くのであるが、今年は晴天の日々が多く、気温も15度前後の暖かい日々が続き、パリの市街にあるマロニエやプラタナスの街路樹はまだ葉を保っており、“枯れ葉舞い散るパリ”という愁える秋の侘びしさを感じるにはちょっと期待はずれのようなのであった。これもエルニーニョ現象の影響であろうか。

世界会計士会議パリ大会は、統一テーマ「会計と社会；公共の利益のために」を掲げて、参加者約6,000名余という盛会振りであった。会議は、全体会議が行われた後、作業部会において個別テーマ毎に研究発表と意見交換が行われた。全体会議のテーマを紹介する。

- 10月27日 「グローバルな市場、グローバルな規制と共に変化する社会における公共の利益」
- 28日 「公共の利益、標準的な基準と期待に応えること」
- 29日 「公共の利益と新たに現れた市場経済」

なお、10月27日に行われた作業部会において、白鳥栄一先生が「国際的な公共の利益と国内の公共利益—グローバルな規制機関はその双方の利益に奉仕することができるのか？」をテーマとして司会を務められた。

さて、10月26日にはパリ・デ・Congreで開会式とウェルカム・レセプションが行われ、10月28日にはディナーパーティが、ルーブル美術館のピラミッドとパリの中心シテ島にあるコンシェルジュリーで催された。

10月29日の閉会式には、シラク仏大統領が臨席され、公認会計士の社会的地位の高さが再認識された。

2. 中大公認会計士会、パリで燃ゆ

世界会計士会議の開会式並びにウェルカム・レセプションが催された10月26日に、中大公認会計士会の会員諸先生がパレ・デ・Congreに近いパリのデヌル大通りの横道に入ったジャパニーズ・レストラン「天慶しなの」にぞくぞくと集まってきた。会議に出席される先生方のうち24名の先生が出席される予定のところ、先生方のご夫人同伴もあり、当夜は44名の出席となり、会場の「天慶しなの」はあふれんばかりの盛会となった。今回の懇親会は、藤沼先生がIFAC(国際会計士連盟)副会長に就任されたのを機に先生を囲んで中大公認会計士会として激励する場であり、また同伴された先生のご夫人方との交歓会でもある。ご存じの如く、中大公認会計士会からは、川北博先生がCAPA(アジア太平洋会計士会議)会長を、白鳥栄一先生がIASC(国際会計基準委員会)議長を歴任されている。

さて、懇親会は山本前会長の挨拶、増田現会長の乾杯により始まった。パリにいなながら、会場のメイン・テーブルには「刺身の舟盛り」が設けられ、寿司、のり巻、カナッペ、乾きもの等日本での宴会ではと錯覚するほどの料理の数々だった。飲み物も、本場のワイン、ビール、ウイスキー、ミネラルウォーター、そして日本銘柄の清酒と、喉・腹ともに大満足の態であった。料理、飲み物ともに文句なしの雰囲気の中で、会場の人の輪は和気あいあい、大いに語り、大い



増田会長 山本前会長 川北元会長
藤沼夫妻

に笑い、大いに食べ、大いに飲み、時の経つのも忘れてしまった。川北先生の中締めで、会もやっと一段落し、お茶漬け、関西風うどんをいただいで、三々五々連れだって会場を後にした。

さてさて、三和幹事長と黒田副幹事長は料理等代金の精算に大わらわ、飲むものも、食べるものもそこそこではなかったのでは、本当に幹事役ご苦労さまでした。

第10回CPAゴルフ十月会

公認会計士
海 藤 丈 二

平成9年9月28日日曜日、快晴無風まさに絶好のゴルフ日和、CPAゴルフ十月会の第10回大会が参加者94名により千葉県茂原にあるグレートアイランド倶楽部にて開催されました。

この会は、角田栄八郎先生(明治)、西谷誠二先生(慶応)、南光雄先生(早稲田)、宗村秀夫先生(一橋)、故堤昭二先生(専修)方の企画により、大学別対抗競技として始まりました。日頃なかなか会う機会の得られない先輩後輩の懇親を深め、同業の仲間の会として発展して参りました。

CPAゴルフ十月会で、我が中央大学の活躍は目覚ましく、過去ネットスコアでは第3、5、7、9回の計4回優勝しております。競技方法は各大学上位4名の①ダブルペリア方式でのネットスコアと②グロススコアで行われております。

今回の中央大学の参加者は14名で上位4名の成績は以下のとおりでありました。

①ネット		②グロス	
桜井欣吾	70.6	芳井 誠	75
芳井 誠	72.6	桜井欣吾	79
山内輝茂	72.8	川和 浩	79
川和 浩	73.0	梅澤厚廣	84
4名平均	72.25	4名平均	79.25

ネットスコアでは、専修大学の71.9に惜しくも及ばず第2位でありましたが、グロススコアでは優勝いたしました。



公認会計士第二次試験合格体験記

商学部会計学科 平成8年卒業

大村 尚子

1. 公認会計士を目指した動機

私は、中央大学の付属高校である中央大学杉並高校に通っていました。高校3年生になり、進路を決定しなければならなくなり、希望する学部をどこにしようか迷っていました。その頃は自分が将来何をしたいかも決まっていませんでしたし、大学に入ってからやりたいことを見つけてからでも、遅くはないと気楽に構えていました。これを良い機会と捉えて、将来について、考えました。当時は、女子学生の就職状況があまり芳しくなかったこともあり、両親とも相談した結果、資格を取りそれを生かした仕事をしていくのがよいのではないかとということになりました。そこで、商学部会計学科に進むことを決め、会計士を目指すことにしました。

2. 経理研究所での受験勉強

進学先が決まって、大学から自宅の方に入学に関する手続書類が届きました。その中に、経理研究所の受講案内も同封されていました。当時の私は会計士を志したもののどうすれば会計士になれるかについては、全く無知でした。ですから、受講案内を目にしたとたん訳もわからずとにかく入所手続を済ませました。私たちの代は300名近く在籍していたと思いますが、なんと受講生番号は1番でした。

経理研究所で勉強を始めてからようやく会計士二次試験の受験業界の様子がわかってきました。都心には大手の専門学校があり、大学の授業を終えてから移動して会計士の勉強をする、いわゆる「ダブルスクール」なるものをこなしている人たちがいるということなどです。私はそれを知らずに迷わず経理研究所を選んだのです

が、結果として正解だったと思います。自宅から八王子の大学までは往復で4時間かかり、体力的にもきつくなっただけでしょうし、何より経理研究所で素晴らしい仲間たちに出会えたからです。

また、私は卒業後は、自宅から近い大手専門学校で勉強を続けていたのですが、経理研究所には大手専門学校と比較して受験生にとって良い点がたくさんあったと思います。

大手予備校に情報量で劣らないようにと、十分なフォローをしてくださいましたし、講師の肩や先輩方に勉強方法について相談する機会も多くありました。特に、レジュメに頼り切らずに積極的に自分で基本書にあたるという勉強姿勢を学ぶことができました。これは、受験勉強に続けるにあたりとても役立ち、卒業後専門学校で勉強を続けていたときも、この姿勢を貫きました。また、受験勉強のみならず、会計士というプロフェッショナルとして社会で生きていく上でも、とても重要なことであり、経理研究所で受験勉強のスタートを切ることによって、このような大事なことを学ことができ、本当に良かったと思います。

3. 受験勉強で得たもの

私は、大学入学後すぐに簿記3級から始めて、今年会計士二次試験に合格するまで5、6年費やしてしまいました。会計士二次試験は、4回目にしてようやく合格したわけです。昨年不合格になり身の振り方を考えたとき、これ以上続けるべきか見切りをつけるべきかととても悩みました。周囲の人にも反対されましたが、私自身は、もう1回だけ挑戦したいという気持ちが強かったので、再度挑戦することに決めました。そして、

本当に手に入れたいものがあつたらあきらめずに強く思うことの大切さと、人生の岐路に立ちどちらに進むべきか迷ったとき、最終的な決断は自分自身で下すべきであることを学びました。他人の意見を聞くことは重要ですが、自分の進路を人任せにしては、良い結果がでなかったときに他人を恨むことになるからです。

4. 最後に

両親の反対を押し切って勉強を続けることにしたものの、専門学校の授業料がありませんでした。3ヶ月間アルバイトをしてかなりの額のアルバイト料を手にして、授業料と小遣い程度

は賄えました。しかし十分ではなく、結局経済的に親に頼ることになりました。実家で暮らしていたことも勉強を続けられた大きな理由です。再挑戦を独りで決めてしまったことは、両親をあてにしたわがままで甘えた行動だったと思います。そんな私のわがままにつきあってくれた両親には感謝の思いでいっぱいです。

また、受験勉強を通じて出会った諸先生方には、多くのことを教えていただき、本当にありがとうございました。これからも積極的にものごとに挑む姿勢を忘れず、真のプロフェッショナルになれるよう精進していきたいと思います。

公認会計士第二次試験合格体験記

商学部会計学科 平成9年卒業

岩崎啓太

1. 会計士を目指した動機

“公認会計士”という職業を知り、目指そうと思ったきっかけは、大学1年のときでした。商業高校の出身ということもあり、大学入学時に日商簿記2級を取得していましたが、中央大学には経理研究所の公認会計士及び日商簿記検定の受験講座があり、周りに経理研究所の講座に在籍し、すでに在学中の合格を目指してスタートを切っている友達が多くいました。自分も周囲の刺激を受け、とりあえず日商簿記の1級を取ることを目指し、経理研究所の講座を受けその延長にある資格を取得して“公認会計士”の資格も取ろうと思い勉強を開始しました。大学入学以前は、簿記の勉強は民間企業の経理に生かされるぐらいに思っていたのですが、この資格があるということを知ってからは、どうせやるならやりがいのあるものを学生生活の集大成としてやってみようと思い“公認会計士”への道を選択することにしました。

2. 合格までを振り返って

公認会計士になりたいと思っていたとしても本当になれるかどうかは別の問題です。在学中は論文式で二度失敗しすんなりと合格できなかったのも、受験勉強をしている間は、単に会計士補といういわば会計士の見習いになることにすぎないのに、合格に辿り着くまでの道程で犠牲にする時間・コスト及びリスクがこんなに大きいものなのかと思っていました。しかし、合格発表の時、自分の名前があつたのを確かめて暫くしてからは、たとえ二次試験に1年や2年余分に時間を費やしたとしても“公認会計士”という資格は取る価値のある資格であると実感しました。「これから先、何年も会計士として働くことを考えれば、幸い二次試験はわずかな時間だったんだ」と。また、合格するまではこの試験は難しく、「合格」というものがものすごく遠くにあるように感じていましたが、合格すれば案外すぐそこにあつたのではないかと思いました。

3. 公認会計士二次試験を通じて得たもの

受験勉強をしてきたわけですから、当然受かるための教科書的な知識は身につきました。しかし受験勉強を通じて得た知識は公認会計士二次試験を通じて自分の中に吸収したもののほんの一部にすぎなかったのではないかと感じています。

私の場合、大学生生活の大半と卒業してからの半年間を受験勉強に費やしたわけですが、普通に大学生をしていれば経験することのできない密度の濃い充実した大学生生活を過ごせたと、また受験浪人ということで身分のない期間、無職を経験したことで現役で合格した人よりも遠回りをしたけれども、その分社会人になる前に普通なら見ることでできない景色を見ることができたことは自分にとって大変プラスになったと思えました。

4. これからの抱負

ドラフトでプロに入ったとしてもプロで活躍するかは本人次第であり、実績を残せるかはわかりません。私も、二次試験に合格し監査をしてもよいと一応認知されただけであり、公認会計士として活躍をする可能性を得たにすぎません。今はようやくスタートラインに立つことができ、これからが本当の勝負だという気持ちです。早く本当の意味での公認会計士になれるように、できるだけ多くの経験を積んで自分を磨いていきたいと思っています。

また、自分独りの力で合格することができたわけではなく、目標となる公認会計士の先輩を多数輩出している伝統のある中央大学という恵まれた環境で勉強できたことが大きかったと思います。直接指導して下さった経理研究所の方々やゼミの先生などの力がなければ、突破することはできなかったかも知れません。今度は自分が後輩から目標とされるように結果に満足せず後輩に還元することも忘れずに、がんばっていききたいと思っています。

平成9年度事業計画

中央大学公認会計士会 幹事長
三 和 彦 幸

本年度も当会の目的であります、母校出身の公認会計士、会計士補の融和、会計士業界の発展と母校における会計士の育成、会計教育の充実に貢献すべく、以下の事業を計画しております。

なお、すでに10ヶ月が経過しており、実施済みとなっております点ご了承お願いいたします。

1. JICPA 研究大会懇親会 平成9年7月23日
広島 リーガロイヤルホテル
2. 第15回世界会計士会議懇親会 平成9年10月26日
バリ 天慶しなの

3. 公認会計士第二次試験合格者祝賀会出席
商学部主催祝賀会 平成9年11月8日
経理研究所主催祝賀会 平成9年10月18日
記念品贈呈 平成9年12月
4. 中央大学講演会講師派遣
経理研究所主催 平成9年12月
商学部主催 平成10年3月
5. 懇親ゴルフ会 平成9年9月28日
大学対抗ゴルフ大会に参加
千葉 グレートアイランド倶楽部
6. 研修会及び新年会 平成10年1月22日

7. 総会、研修会及び懇親会 平成9年6月23日
 8. 会報の発行 平成10年1月

- 会 長 増田浩二
 幹 事 長 三和彦幸
 副幹事長 池谷修一 伊原美好
 櫻谷隆夫 後藤徳彌
 清水 至 中根堅次郎
 谷古宇久美子 三宅博人
 会計監事 萩野八郎 鍋島 仁
 花田文宏

【役員の改選にあたって】

平成9年6月23日の総会での役員改選決議により、会長に、山本秀夫先生に代わって増田浩二先生が選任されました。増田新会長のもと以下の幹事長、副幹事長、会計監事が今後2年間当会の世話役を担当することとなりました。会員の皆様の絶大なるご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

決算報告

平成8年度収支決算及び平成9年度収支予算

(単位：円)

I. 収入の部

	平成8年度決算額	平成9年度予算額
1. 会費収入	1,639,000	2,000,000
2. 総会懇親会収入	278,000	400,000
3. 講演会等行事収入	124,000	150,000
4. 同好会収入	—	100,000
5. 募金活動費収入	91,000	—
6. 受取利息	3,917	5,000
収入合計	2,135,917	2,655,000

II. 支出の部

	平成8年度決算額	平成9年度予算額
1. 総会関係支出	280,675	500,000
2. 講演会等行事支出	536,157	600,000
3. 会報関係支出	—	400,000
4. 学生奨学関係支出	461,852	500,000
5. 対外関係支出	85,450	100,000
6. 事務費支出	286,512	300,000
7. 雑支出	24,163	200,000
支出合計	1,674,809	2,600,000
当期収支差額	461,108	55,000
前期繰越金	1,767,716	2,228,824
次期繰越金	2,228,824	2,283,824

会費振込のご協力、誠にありがとうございました。本年度もよろしくお願ひ申し上げます。

以 上

平成9年公認会計士第二次試験 出身大学別合格者数

1位 (1)	慶応大学	115名	6 (8)	東京大学	23名
2 (2)	早稲田大学	85	6 (18)	大阪大学	23
3 (3)	中央大学	38	8 (7)	関西学院大学	22
4 (5)	明治大学	33	9 (11)	同志社大学	21
5 (4)	一橋大学	26			

() は前年順位

日本公認会計士協会の調査による。

平成9年公認会計士第二次試験合格者

経理研究所関係 (28名)

氏名	学部・学科	在・卒	ゼミ
阿部 克巳	経・産経	96.3卒	—
岩崎 啓太	商・会計	97.3卒	北村ゼミ

河合 厚治	経・産経	97.3卒	石川ゼミ
鈴木 邦靖	経・公経	97.3卒	小口ゼミ
松苗 茂樹	商・会計	95.3卒	渡部ゼミ

氏名	学部・学科	在・卒	ゼミ
古林 照己	経・産経	96.3 卒	小口ゼミ
飯田 博士	商・会計	96.3 卒	矢部ゼミ
武藤 泰典	法・政治	96.3 卒	工藤ゼミ
大高 康一	経・経済	97.3 卒	-
松本 豊	商・経営	95.3 卒	川北ゼミ
川辺 恵子	商・会計	96.3 卒	矢部ゼミ
塩谷 高子	商・会計	3 年在学	北村ゼミ
辰野 健	商・会計	97.3 卒	楡田ゼミ
鈴木 龍吾	商・会計	97.3 卒	木下ゼミ
石川 亮	商・会計	96.3 卒	富塚ゼミ
石井 一弘	商・会計	63卒(3期)	白鳥ゼミ
菅井 修	経・経済	4 年在学	-
鈴木 浩史	経・経済	97.3 卒	小口ゼミ
小泉 眞人	商・会計	95.3 卒	渡部ゼミ
花房 幸範	商・会計	4 年在学	白鳥ゼミ
大村 高子	商・会計	96.3 卒	矢部ゼミ
赤井 雄一	商・会計	96.3 卒	白鳥ゼミ
高橋 剛	商・会計	95.3 卒	矢部ゼミ

田島 暢廣	経・産経	96.3 卒	-
葛西 利彦	経・経済	95.3 卒	-
山本 恵宏	経・経済	94.3 卒	岩波ゼミ
有田 幸弘	経・経済	96.3 卒	-
外村 弘樹	商・会計	92.3 卒	中瀬ゼミ

経理研究所以外（10名）

氏名	学部・学科	在・卒	ゼミ
岩田 稔	法・法律	96.3 卒	西脇ゼミ
青山 兼三	商・会計	97.3 卒	木島ゼミ
三原 利之	商・会計	92.3 卒	山下ゼミ
清本 雅哉	法・法律	95.3 卒	-
西村 光弘	商・会計	4 年在学	中平ゼミ
大串 和義	商・会計	94.3 卒	石川ゼミ
田中 弘司	法・法律	94.3 卒	吉田ゼミ
塩谷 一樹	経・経済	96.3 卒	-
西谷 秀治	経・国経	91.3 卒	合崎ゼミ
桑原 茂樹	商・経営	94.3 卒	-

編集後記

後藤 徳 彌

昨年は、銀行、証券、ゼネコン等の公開会社の倒産が続出し我々公認会計士に対し非常に厳しい批判のあった年であったと思います。

中央大学公認会計士会会報「絆」の第4号ができあがりました。ご寄稿いただきました先生方に厚くお礼申し上げます。

公認会計士第二次試験の出身大学別合格者は我が中央大学はかつての常にトップの時代からみれば不満かもしれませんが最近2年間は3位を確保し今後の躍進が期待される所であり、「中央大学における公認会計士の育成について」と題して中央大学経理研究所副所長である矢部教授に執筆していただきました。

平成8年の秋に叙勲されました山本先生には昨年の4月執筆していただきましたが、昨年は会報の発行ができなかったため今回の会報に記載となり、大変遅れて申し訳ございませんでした。

今回は増田会長、三和幹事長の新執行部による初めての会報のため会長挨拶及び事業計画等を記載しましたが、企画等で提案がありましたら関係者にご連絡していただきたいと思ひます。

平成10年は公認会計士制度が発足してから満50年を迎えることとなりますが、今まで以上に公認会計士に対して期待と批判が強くなると思ひますので会員の皆様の一層の活躍を期待します。

中央大学公認会計士会報 No.4

平成10年3月10日発行

発行人 中央大学公認会計士会 会長

増 田 浩 二

発行所 〒101-0062 千代田区神田駿河台3-11-5
中央大学駿河台記念館内
中央大学経理研究所気付